

地域との共生社会を目指して、 障がい者・高齢者との関わりの中でゆりかごから墓場まで 生きていて良かったと思える人生の自己実現に向けた 特例子会社の取り組み

神奈川県鎌倉市岡本 2-13-18
富士ソフト企画株式会社
部長 遠田 千穂

1 はじめに

津久井やまゆり園事件から3年が経過した。

障がい者・高齢者が地域社会と共生していくこと。新たな課題が付き付けられているが、238名の社員のうち9割が手帳を持ちうち半数が精神・発達障がい・半数が身体・知的障がい構成される富士ソフトの特例子会社（富士ソフト企画株式会社）の地域との連携を記す。社歴が長い社員も多く、定年再雇用の社員も増えている状況である。

2 事例や取組の紹介

大船のフラワーセンターがあったころは、花がら積みなどのボランティアで、当社が運営をする就労移行支援事業所（就職予備校）の利用者・障がいのある社員達がボランティアで通う。鎌倉ロジュマン祭りでは、視覚障がいのある社員達が西会津で日本一の賞を頂いた椎茸を作っているのだがその椎茸を活用した焼きそば、また、親会社富士ソフトのロボットを活用し、地域の子供たちにIT教育としてミニロボット相撲大会を開催し好評を博す。

地域の外国人のボランティアの方に、当社の障がい者の社員に英会話を教えて頂くことも地域連携に繋がる。どんな障がい者でも語学を学び、グローバルに活躍する事を目指す。

就労移行支援事業所は、近隣地域の様々な年齢の方々が参加され、パソコンやコミュニケーションを学び、高齢化をする引きこもりのご家庭や、生活保護のご家庭のご家族の指針となる。障がいのある社員が、生活支援センターでWRAP（元気回復プロジェクト）を実施する事により、地域共生社会を目指す。アニマルセラピーで地域の保護犬も元気回復に一役買う。

身体障がいの方を知的障がいサポートし、知的障がいを精神障がいサポートし、精神障がいが発達障がいをサポートし発達障がい地域の方々をサポートし、地域の方々が、身体障がいの方々をサポートし、というサイクルは、障がいを軽減し、加齢に拍車をかける礎ともなる。

委託訓練トライでは、地域のハローワークから紹介された老若男女の方々に、パソコン操作やコミュニケーション力を教えるのだが、この訓練も、障がい当事者の社員が企画し、入札をし、過去47回実施している。卒業生は、478名を超え、うち7割の方々が社会復帰を果たし企業で活躍をする。LGBTやGITの社員も受け入れ、地元や地域でも、堂々と社会参画が出来る様に会社としてもトイレや服装・ロッカーなどの合理的配慮を実施する。茅ヶ崎特別支援学校の学校評議委員も、8年前より勤め、地域の安全や災害時の対応などの会議に参画をする。

東日本大震災時は、玉縄小学校に、異なる障がい者同士がバディを組んで避難をし、被災してきた地域の方々に、毛布・食べ物・ろうそくを配った。予備自衛官の訓練を毎年受けている社員も雇用しているため、地域との安全連携を取っている。地域の特別支援学校・一般の小・中学校・

高等学校・大学生の実習や、研修見学も受け入れ、幼少時より、障がい者や高齢者に慣れ親しんでいただける様工夫をしている。良い思い出楽しい思い出があれば大人になった時、差別する気持ちや産まれることはない。どんなに重い知的障がいの方々も、P Cを使った業務全般に勤しんでいる。

身体の方は、キーボードを叩く動作により、脳に刺激が行っているようなので、少しずつではあるが、歩けるようになってきた車いすの社員もいる。また、脳への刺激は、I Qを高めたり、薬が減って来たりということにもつながり、知的の方々や能力UPや、精神の方々や薬による副作用の軽減、発達の方々やコミュニケーション力UPにもつながる。就労は障がいを軽減するという信念で地域社会と共生をしている。避難訓練も、地域の消防署と連携をして行う。

3 考察

会社にいる時間・プライベートな時間・地域との関わりは密接になってくる。ボランティア・スポーツ・東京オリンピック・パラリンピックのボランティア参加社員を表彰する制度も、年に1回実施。休日、地域での趣味や手話サークル活動・横浜の万歩計をつけて歩行訓練をしている社員もいる。ゆりかごから墓場まで、地域・学校・企業と人は生きて行く。

一人の人生を彩り豊かにするべく、また、1人の自殺者をも出さないという

企業と地域との連携が重要になっている。地域包括ケアシステムは、精神・発達障がいの方々にも応用しており、犯罪抑止にもつながる。納税者として国民の義務を果たしたいという思いは誰もが抱く。

聴覚障がい（全聾）の社員が、京都アニメーションの放火現場まで行き、献花を行う。

津久井やまゆり事件を含め、二度と痛ましい事件が繰り返されない様に、万人が生き甲斐・遣り甲斐のある共生社会を創りあげていくことは特例子会社の任務であると考えている。

様々な障がい・年齢・健常者が共生する社会を目指すためにも、当社の特例子会社の取り組みはクローズアップされ、年間200以上の企業・団体が見学に来る。世界各地からの見学も、多く、特に戦争の激しい中東諸国の見学が多い。ご両親を目の前で殺されてPTSDになった方や地雷で手足が飛んだ方に、どういふ仕事をやらしてもらえば良いのだろうかというご相談が多いのが特徴。直近ではスウェーデンのサムハルのCEOが見学に来た。心の問題は世界的な問題につながりつつある。

4 終わりに

生きていて良かったと思える地域社会の実現に向け、1人でも多くの障がい当事者の方を雇用し定年再雇用にも積極的に取り組み（働く意欲と体力があれば、死ぬまで働いて良いという社訓もある。）生涯、社会参画をし、地域社会でいきいきと活躍ができる方を育成することを念頭に運営をしている。

